観音経にすがった話

昔、五幸山の麓の部落になにかわからぬ流行病がまんえんして、大岳という屋敷では、家族が次々に八人も死んだ。辛うじて残った嫁と乳呑児は、お山（五幸山）の観音様におすがりする外はないと考え、水とり場で身を清め、背には子供を、手には上げ物の杉の苗をもって五幸山に登り、観音経一巻を唱えながら病気平癒を祈願したという。間もなくその流行病は治まり、平静になったということです。

そんなことがひろまってか、年を追って参詣する信者の数もふえ、例祭旧暦三月十七日には家内安全の守り神として、必ず子供をおぶって杉の苗を持ってお参りするようになり、近年まで地元青年会などは杉苗の受付と植樹の世話で大わらわだったということです。

御山の獅子唄

一、　おししよおしし
　　ここらにたもれ
　　山のお峰に三社がござる
　　ししのお守は皆神様よ
　　ししのおる場所何程ご座る
　　笹のある山皆吾山よ